

# Flutter であなたもアプリデベロッパー!!

## 目次

### はじめに

この文章は、筆者が最近アプリ開発を久しぶりにかじり出したら楽しくなっちゃった結果生み出された駄文です。心してお読みください。

この文章を通じて、Flutter というフレームワーク\*<sup>1</sup>を使用して基礎的なアプリ開発ができるようになることを目標としています。想定している読者は以下の通りです。

- アプリ開発をしたことないけどしてみたい人。
- Xcode や Android Studio を使ったアプリ開発はめんどくさい人。
- 暇な人。

逆に、今までアプリ開発をいろいろやってきて、「新しいフレームワークでも調べながらごりごりいじれるよ！」みたいな人は想定していません。お帰りください。

この文章では、基本的な専門用語も脚注などで軽い説明を入れてあるつもりです。わからないところが出てきても、とりあえず少し先まで読んでみてから調べることをお勧めします。

また、本書で使用しているコードは筆者の GitHub(<https://github.com/50m-regent/magazine>) で全て公開しているので、ぜひ参考にしてください。

最後に、本書に関してご意見などありましたら筆者の Twitter(@50m-regent) までご意見をいただければ幸いです。

では、Flutter の世界に飛び込みましょう！

### Flutter って何？

皆さんは Google という会社を知っているでしょうか。むしろ知らない人がいるのかというレベルですね。言わずと知れた世界の大企業です。そんな Google が開発している Web・アプリ開発用フレームワークが Flutter です。皆さんが普段使っているような Google のアプリも、このフレームワークを使用して実装されています。

さて、そんな Flutter ですが、Dart というこれまた Google が開発している言語を使用してソースを書きま

---

\*<sup>1</sup> システム開発を簡単にできるように用意されたプログラム

す。個人的に他のアプリ開発方法\*<sup>2</sup>と比べて嬉しいなと感じた点を挙げてみます。

- GUI\*<sup>3</sup>で設定やアプリの構成をする必要がなく、コーディングで全て行うので、シンプルな開発ができる。
- iOS、Android 両対応のアプリを簡単に作ることができる。
- 標準でデザインに使えるような部品が用意されている。

Flutter にはまだまだ沢山の長所がありますが、逆に欠点もあります。中でも最大のものは、日本語の解説が少ないという点です。筆者が開発してる時は、8 割以上海外のウェブページを参考にしていました。

これから Flutter に触れる人たちが英語によって門前払いを食らわずに、この文書を通して少しでも忌避感をなくできれば幸いです。

## 環境構築

さて、まずはじめに Flutter で開発ができる環境を作らないといけません。

Android Studio という IDE\*<sup>4</sup>を使用する方法と、VScode というエディタ\*<sup>5</sup>を使用する方法がありますが、個人的にオススメの VScode の方を解説していきたいと思います。「Android Studio で開発しないと耐えられない！」という人は各自調べてください。

なお、iOS アプリの開発をするには OS X が必須です。ご了承ください。

## 全 OS 共通編

### SDK\*<sup>6</sup>のダウンロード

まず始めに、PC が Flutter を認識できるようにします。

- Flutter 公式サイト (<https://flutter.dev/>) にアクセス。
- 図??の”Get Started”を押した後、図??のページで適当な OS を選択。
- flutter\_{OS 名}\_vX.X.X-stable.zip をダウンロード。

## Windows 編

---

\*<sup>2</sup> Xcode を使用した iOS アプリ開発や、Android Studio を使用した Android アプリ開発

\*<sup>3</sup> マウスを使って直感的な操作をできる画面

\*<sup>4</sup> 統合開発環境。一つのソフトウェアでシステム開発ができるようにしてあるもの

\*<sup>5</sup> テキストファイルを編集するソフト

\*<sup>6</sup> ソフトウェアを使うためにセットにしてあるファイル